

「勉強の本質」とは

「先生、あの本は本屋にありますか。」
一人の生徒が、一昨日私が紹介した本についてこう尋ねてきました。早速興味を持ってくれたことが感動でした。そうであれば、第二弾を書かねばと思って今日書いています。

そもそも家庭学習とはどういう勉強をいうのでしょうか。宿題は家庭学習に入るでしょうか。『中学勉強法』を読むと、筆者は「宿題は家庭学習ではない」と主張していると私はとらえました。なぜなら、筆者が次のように書いているからです。

「『**勉強の本質**』とは、『**XをOにする**』こと、すなわち『**できないことをできるようにする**』こと。」

これを言い換えると、「勉強はできないことをできるようにしないと力はずかかない」ということです。したがって、宿題はそれにあてはまりません。義務としての勉強ですので、勉強の本質からずれていると言えます。（だからと言って、宿題はやらなくてもよいということではありませんからね。）

したがって、「宿題に二時間かかったから、今日の家庭学習の時間は二時間だ」というのは、単なる自己満足に過ぎません。この状態を続けると、「時間をかけて勉強している割には成績が伸びない」ということになり、勉強がつまらなくなります。筆者は次のようにも言っています。

「**宿題をする力を借りて『自分勉強』を毎日五分やる!**」

この「自分勉強」が、「できないことをできるようにする」ための勉強であり、本来の家庭学習です。五分と言うのは、「五分から始めなさい」ということで、最低ラインです。目指すのはもっと長い時間です。これが本来の家庭学習です。時間の長さより大切なのは、「毎日」ということ。簡単そうで、これが最も難しいことです。

実は、この五分から始める「自分勉強」のやり方や内容が、成績を伸ばすことに大きく影響します。君たちの勉強で言うと、自主学習ノートにやっている勉強のことですね。この「自分勉強」に、昨日書いた「ピントの外れた勉強」があると筆者は言っています。あなたが自主学習ノートにやっている勉強は大丈夫でしょうか。

「ピントの外れた勉強」については後日書きますね。今日のところは、「家庭学習は、できないことをできるようにする勉強である」ということを知っておいてください。その点から、今の自主学習ノートにやっている勉強を見つめなおしておくのがよいかもしれませんね。

考えてみればスポーツも同じです。指導者からやるように言われたことだけやっていても、「強くなりた、うまくなりた」とい願いはまず実現しません。時間も限られているので、効率のよい努力の積み重ねが大切です。（二月十九日 記）